

深堀六番隊について

平 幸治

四年後の二〇一八年は明治維新の内戦、戊辰戦争から一五〇年になる。戊辰戦争といえば長崎振遠隊が想起されると思うが、深堀六番隊の事も忘れてはなるまい。深堀(長崎市深堀町)が佐賀藩領であったため、深堀六番隊のことは佐賀の戊辰戦史で触れられる事はあっても、長崎ではほとんど語られていないようである。

慶応三年十二月、佐賀藩は藩主鍋島直大上京の先遣部隊として先手組大番頭・鍋島孫六郎茂精の一手を上洛させた。孫六郎は佐賀藩の家老で深堀領の領主でもあった。孫六郎の親衛隊として従軍した深堀家士の一隊を「深堀六番隊」といった。

孫六郎主従三〇余人は同月二一日佐賀を出発したが一時、筑前黒崎で足止めさせられた。それは王政復古政変の知らせを受けた佐賀藩庁が情勢判断に苦しんでいたからである。その後、進発命令が出て、翌明治元年正月二八日、入京している。京都で編成された孫六郎を大隊長とする佐賀藩兵八二四人は、新政府北陸道の先鋒軍に加わり、北陸道から東山道を進軍して四月四日江戸に至った。そして深堀の家士たちは、江戸市中警備の任務にあたった。更に江戸では深堀からの後続部隊も合流した。



佐賀藩秋田口軍戦没者招魂碑
(佐賀県護国神社内)

閏四月九日、佐賀藩兵に庄内追討応援が命じられ、豊前小倉藩兵と共に横浜から英国汽船に乘込み仙台に向かった。これより先、仙台にいた公家の九条道孝を総督とする奥羽鎮撫使一行は、東北諸藩の抵

抗にあい、全く成果を挙げられずにいたので、七月一日孫六郎はみずから九条総督を護衛し、秋田に移り、以後ここを拠点として庄内藩と連戦することとなった。

新政府の庄内追討軍は、羽州街道を南下する「山道」と日本海沿岸より向かう「海道」の二方面から進撃した。佐賀兵も二手に分かれたが、海道口の佐賀軍は孫六郎が隊長であった。秋田兵・筑前兵のほか本荘・亀田・矢島の各藩兵とともに佐賀軍は庄内軍と戦った。

なお山道口新政府軍には長崎振遠隊・大村兵・島原兵・平戸兵も出動していた。

七月一三日、孫六郎は庄内藩境の三崎峠(山形県遊佐町)に進撃した。途中、庄内軍と銃撃戦となり、深堀の家士向井喜助が負傷(のちに死亡)。一四日・一五日と対峙した両軍は一六日に激突。この日未明、新政府軍の一隊は間道から女鹿村(同町)を襲撃し三崎峠の背後を衝く事になり、深堀六番隊がこの任にあたった。しかし庄内軍の激しい抵抗にあい峠は破れず、塩越(秋田県にかほ市象潟町)まで退却した。この女鹿村の激戦で、深堀の多々良鉄之助と川原泰三が戦死、西久保平九郎・荒木文八郎・緒方収蔵・古賀松一郎が負傷。腰に銃弾をあびた荒木文八郎は敵地の洞窟に隠れていたが七日後に自刃。西久保平九郎も死亡した。このうち矢島城も庄内軍の攻撃によって陥落炎上したので、新政府軍はしばらく後退を続けた。二七日、援軍の佐賀藩武雄領主鍋島上総(茂昌)率いる兵卒八三九人到着。武雄軍は早くから洋式兵備を整え、最新鋭の阿姆斯特朗砲四門も装備していた。

八月五日、武雄兵一小隊と深堀六番隊は南下して平沢(同市仁賀保町)に進んだ。平沢は戦火のため人家は一〇二割しか残っていなかった。敵兵と激しい銃撃戦となり、地の利が悪く苦戦したが、雨が降り敵の銃撃はやんだ。味方の銃は雨でも使えるスペンサー銃である。しかし雨があ

風信

○長崎くんちは本年も無事終了いたしました。例年の私はこれより読書の秋、暫くは静かに本でも読み十一月恒例の長崎市立図書館「文化の日記念」長崎学講座の準備をしていたのですが……。

○今年には四十五年振りに「がんばらば長崎国体」が開催され全国より多くの人達が長崎に集まって来られるので、其の対応に御協力下さいとの事。

○勿論、ご協力には力は惜しみません。先日来、事務所の方にも毎日多くの人達が訪れて下さって、観光や長崎文化の事等につき色々質問があり、其の場所を教えてくださいと言われる。

○長崎で先ず第一に訪ねたい処は、グラバー園、眼鏡橋、食べたい物はチャンポン、お土産品はカステラと言われる。

○国宝崇福寺、出島オランダ屋敷、二十六聖人殉教地、長崎孔子廟もありますけど……「時間がありませんので……次は佐世保のHTBに行く予定です」と言われる。

○さて、今年の暦を見ていましたら……。今年の九月は閏月で九月が二度あり、その為、旧暦の十月一日(十一月二十二日)の條には「雪の降り始む小雪」とあった。すると今年には旧暦の十月には雪が降る寒い日になるのですね。寒さに用心いたしましょう。

○然し、今年も早や残すところ二ヶ月。十一月三日は「文化かがやく日」。十二月には全ての煩惱を拂ってくださる除夜の鐘をきき、さわやかな新年を迎えるのも、もうすぐですね。

○毎水曜日午後に開催している「水曜懇話会」、今月は八月初旬スウェーデンに研究に行かれていた本会理事竹之下憲一郎氏より左記のような報告があった。江戸時代出島オランダ商館より輸入された初期の大砲の製造地はスウェーデンであった事。出島より輸出された棹銅も多く大砲等の兵器に使用されたようである事。その他、ウプサラ図書館に残る長崎オランダ通詞関係資料の紹介があった。

○今月ご寄贈いただいた本『ふるさとのおはなし』ながさき物語をつくろう塾発行。精霊船、心田庵物語、中島川物語等、「子供達の心と共に大人達へのおくりもの」と記してあった。

『歴史研究 九月号』岡山の村山三枝子女史より。同書には村山女史の父松野尾先生著の「五島列島に実在した高天原」の論評があった。

(長崎出身 兵庫県在住)

佐賀県護国神社には孫六郎が率いた佐賀藩秋田口軍の戦没者招魂碑(写真)があり、ここに深堀六番隊五人の名前もある。彼らの墓は四人が深堀菩提寺後背の墓地に、一人は同寺の龍珠庵墓地にある。秋田の全良寺、象潟の蛸満寺にも合葬墓がある。

なお深堀家士の戊辰戦没者は六名で、その一人は会津若松城下で戦死した桑原源之助で、墓が会津若松の西軍墓地にあると言うが詳細は不明。現在、六番隊隊士の名前は断片的にしかわからないので、深堀の旧家などに資料が秘蔵されていないだろうかと考えている。

長崎歴史文化協会 研究室

TEL 八二二一 一五四〇

十八銀行公会堂前出張所 二F

